

都市環境の快適性に関する市街地住民意識の調査結果

九州共立大学工学部 学生会員 地子給 浩志

九州共立大学工学部 正 会 員 片 山 正 敏

1. はじめに

都市生活者にとって、各種都市施設は、時として便利良く感じることもあれば、不便に感じることもある。快適で住みよい都市環境の創出にあたっては、このような都市環境の快適性にも配慮した、基本計画が大切である。この観点から、昨年に続いて都市環境の快適性に関する市街地住民の意識について、アンケート調査を実施したので報告する。

2. アンケート調査の概要

北九州市八幡西区近辺の市街地住民に対するアンケート調査の概要を表－1に示す。調査場所の市街地区においてアンケート調査票を配布・留置・回収の方法により行った。

3. 回答者の属性

（1）回答者の性別と年齢

回答者の性別は、女性：53.4%、男性：46.6%と、女性のほうが多い。年齢は、60歳以上の回答者が32人と一番多くなっている。（図－1参照）

（2）回答者の職業

回答者の職業は、会社員が42人と多く、続いて専業主婦31人、その他（年金生活者など）19人、学生18人となっている。反対に少ないのは自営業と公務員の4人である。

4. 交通に関する快適性

バスに関する快適性について、「バスの本数」、「バス停の数」、「バス停留所の空間」を比較した。（図－2参照）バスの本数では、住民の約63%が、非常によいとややよいを合せて“よい”と回答しており、バス停の数では約48%、バス停留所の空間では約25%となっている。

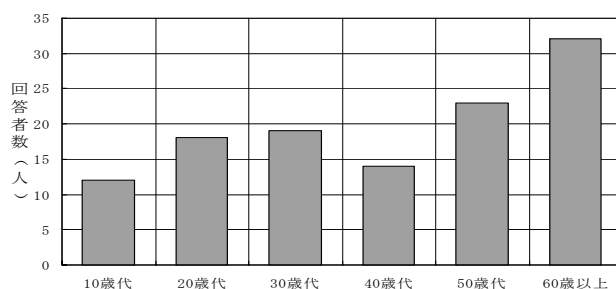
バスの本数とバス停の数ではやや満足度が高いが、バス停留所の空間では満足度はかなり低い。

5. 道に関する快適性

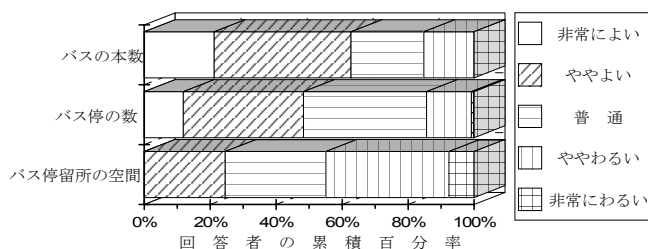
歩道に関する快適性について、「歩道のバリアフリー」、「歩道の幅」を比較した。（図－3参照）、

表－1 アンケート調査の概要

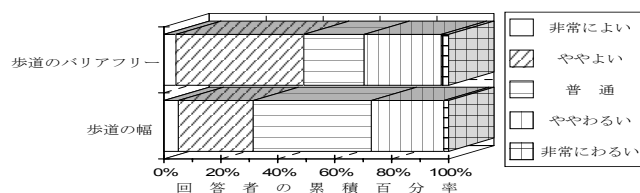
調査対象	北九州市八幡西区近辺の市街地住民
調査期間	平成17年8月下旬～9月下旬
調査方法	居住地を訪問し、配布・留置・回収により行った。
調査項目	属性3、交通に関する快適性11、道に関する快適性5、環境・衛生に関する快適性9、公共・公益施設に関する快適性5、その他に関する快適性7（合計37項目）
配布数	130部（有効回答部数 118部）
有効回収率	90.8%



図－1 回答者の年齢



図－2 交通（バス）に関する快適性



図－3 道（歩道）に関する快適性

歩道のバリアフリーでは、約49%が“よい”と回答しているが、歩道の幅では約31%となっている。逆に、歩道のバリアフリーでは、ややわるいと非常にわるいを合せて約30%が“わるい”と回答しており、歩道の幅では約27%となっている。

また“普通”と回答しているのは、歩道のバリアフリーでは約21%、歩道の幅では約42%となっている。このことから、歩道のバリアフリーは、比較的満足度が高いが、歩道の幅では、少し満足度が低いようである。

6. 環境・衛生に関する快適性

河川に関する快適性について、「河川のきれいさ」を検討した。（図-4参照）河川のきれいさでは約10%が“よい”と回答しており、逆に、約64%が“わるい”と回答している。河川のきれいさについて、満足度が低いようである。これは河川の雑草などの手入れが不十分であることなどによるものと思われる。

7. 公共・公益に関する快適性

公園に関する快適性について、「公園緑化の景観」、「公園の施設」、「バイクの進入防止」を比較した。（図-5参照）公園緑化の景観では、約28%が“よい”と回答しており、公園の施設では約18%、バイクの進入防止では約59%となっている。

このことから、公園緑化の景観と公園の施設については、やや不満足のようである。

8. その他の快適性

騒音に関する快適性について、「昼間、車の騒音」、「夜間、車の騒音」を比較した。（図-6参照）昼間の自動車騒音では、約31%が“よい”と回答しており、夜間の自動車騒音では約4%となっている。また、昼間の自動車騒音は、約38%が、夜間の自動車騒音では約62%が“騒がしい”と感じており、昼間の自動車騒音よりも、夜間の自動車騒音のほうが騒がしいと感じていることが分かる。夜間では自宅に居ることが多く、静粛であるためであろう。

9. SPSSによる分析結果

SPSSを用いて、「ゴミに関する快適性」に関して、コレスポンデンス分析を行った。（図-7参照）分析した項目は、道にゴミは落ちていないか、ゴミの分別、ゴミ出し日、ゴミの不法投棄、動物によりゴミの散乱の5つである。ゴミ出し日、道にゴミは落ちていないかの快適性に対しては同じような反応を示しており、“よい”と感じている。逆にゴミの不法投棄は、“わるい”と感じていることが分かる。ゴミの分別と動物によりゴミの散乱については“普通”と感じている。

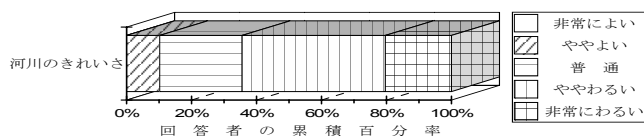


図-4 環境・衛生（河川）に関する快適性

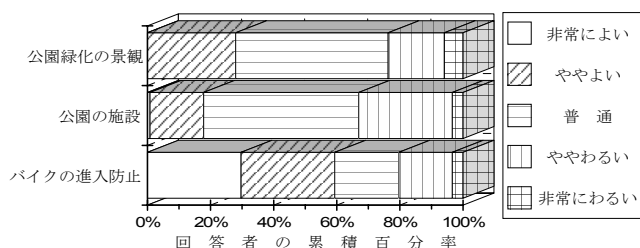


図-5 公共・公益施設（公園）に関する快適性

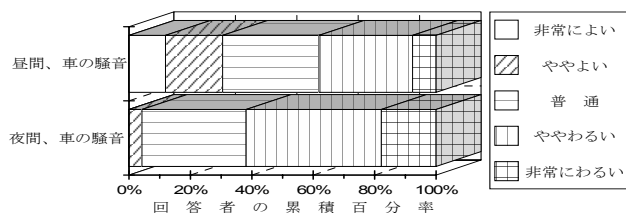
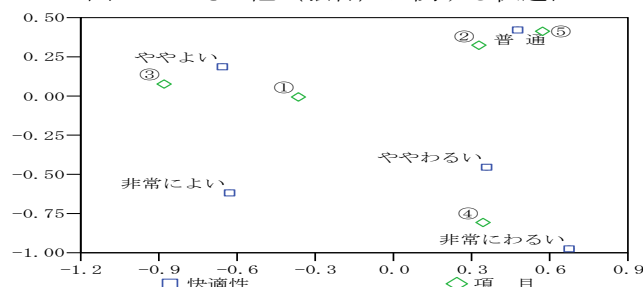


図-6 その他（騒音）に関する快適性



①：道にゴミが落ちていないか、②：ゴミの分別、③：ゴミ出し日
④：ゴミの不法投棄、⑤：動物によりゴミの散乱

図-7 コレスポンデンス分析結果（ゴミ）

9. おわりに

都市環境の快適性は、自然に関することや、安全性、利便性などの要素が挙げられる。今回は、交通、道、環境・衛生、公共・公益、騒音に関する快適性について市街地住民の意識を知ることができた。

この結果、バス停留所の空間、河川、騒音については、満足度が低いようである。バス停留所の空間では、歩道の幅が広いほどゆったりとした空間となるので、このような結果になったと思われる。河川では、雑草の手入れの不十分さなどが原因と思われる。夜間の騒音では、自宅に居ることが多く、また、一般的に静粛なため、昼間の交通量より少ないが騒がしいと感じる人が多いと思われる。

都市環境についての住民意識は、地域や年齢層によってかなり異なってくるので、今後さらに調査が必要と思われる。